

●相談支援・情報提供部会

日 時	平成23年7月28日（木） 14:00～16:30
場 所	奈良県庁 情報管理棟 会議室
出席委員	6名（欠席：3名）
これまでの経過	現状と課題・患者・家族は相談窓口が設置されていることを知らない 各拠点病院の相談窓口の利用者が少ない。 身近な生活圏に相談窓口がない。 特に南和医療圏には拠点病院、および相談窓口がない。 患者サロンは2か所 情報の提供が電子媒体が中心になっている傾向である。 利用者が限られる、 ・がん患者意識調査を実施。（H22年12月） 相談窓口の存在を知らない。利用経験者が少ない。の結果 アクションプランの検討 ・目標「すべてのがん患者、および家族が、不安、悩み、疑問に対し、いつでも身近なところで必要な情報を受けることができる」 ・患者、家族が身近な地域で相談できる窓口の設置（薬局・市役所保健所） 特に南和医療圏に相談窓口の設置（患者サロンを併設） すべての拠点病院に患者サロン設置 ・相談窓口の充実を図るため、奈良県版相談員必携を作成 ・評価として、がん患者、家族が相談支援を受けての満足度調査 ・相談窓口・サロン周知に関する検討
議 題	1. 患者・家族満足度調査について 2. 奈良県版相談員必携（案）について
内 容	1. 患者・家族満足度調査について ・昨年12月に実施した『がん医療に関するアンケート調査』の結果では、相談支援センターの認知度、利用経験ともに低率であった。 ・調査結果を受けて、まず、相談支援センターの認知度を上げる取り組みが必要との意見があり、県内のがん相談窓口の啓発リーフレットを作成する方向で検討。 ・患者・家族満足度調査については、まず、相談支援センターの認知度を上げる取り組みを実施し、年度後半で相談支援センターの利用者の満足度を評価する。 2. 奈良県版相談員必携（案）について ・がん相談窓口の相談の充実を図るため、奈良県版相談員必携（案）の内容について検討。
今後の予定	・相談支援センター啓発用リーフレット（案）の検討 ・患者・家族満足度調査（案）の検討、実施 ・奈良県版相談員必携（案）の検討

がん医療に関するアンケート調査

●奈良県において、がん医療、緩和ケア、在宅医療に関し、患者や家族のニーズを明らかにし、がん対策に反映させる。

●調査対象：がん患者、家族、遺族

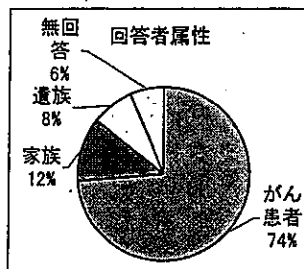
●調査方法：がん診療連携拠点病院、がん診療医療機関、訪問看護ステーション、患者団体を通じて、調査票を配布。郵送（一部聞き取り）。

●調査期間：2010年12月1日～12月31日

●回答状況：配布数 1766件 / 有効回答数 664件 / 回答率 37.6%

1 アンケートの記入者

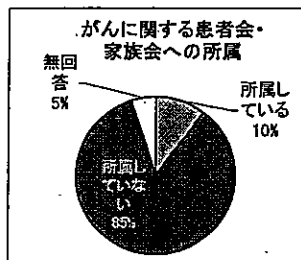
	回答人数	割合
がん患者	489	73.6%
家族	80	12.0%
遺族	53	8.0%
無回答	42	6.3%
	664	



・回答者664名の属性は、がん患者が74%、家族・遺族が20%であった。

2 がんに関連する患者会や家族会への所属

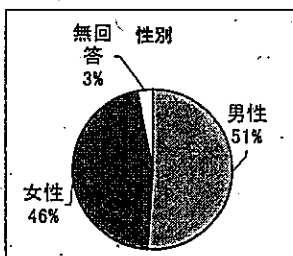
	回答人数	割合
所属している	68	10.2%
所属していない	563	84.8%
無回答	33	5.0%
	664	



A. がん患者について

3 現在の年齢と性別

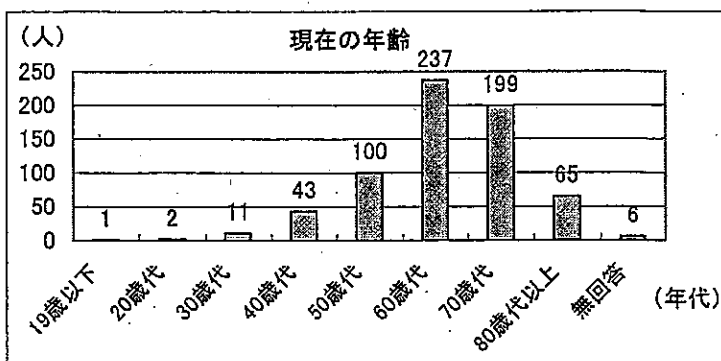
	男性	女性	無回答	割合
19歳以下	1			0.2%
20歳代	1	1		0.3%
30歳代	2	9		3.2%
40歳代	9	32	2	6.5%
50歳代	33	65	2	15.1%
60歳代	130	100	7	35.7%
70歳代	125	69	5	30.0%
80歳代以上	39	26		9.8%
無回答		1	5	0.9%
	340	303	21	664



・対象者の性別は、女性が46%、男性が51%であった。
・平均年齢は、66歳であった。

	回答人数	割合
19歳以下	1	0.2%
20歳代	2	0.3%
30歳代	11	3.2%
40歳代	43	6.5%
50歳代	100	15.1%
60歳代	237	35.7%
70歳代	199	30.0%
80歳代以上	65	9.8%
無回答	6	0.9%
	664	

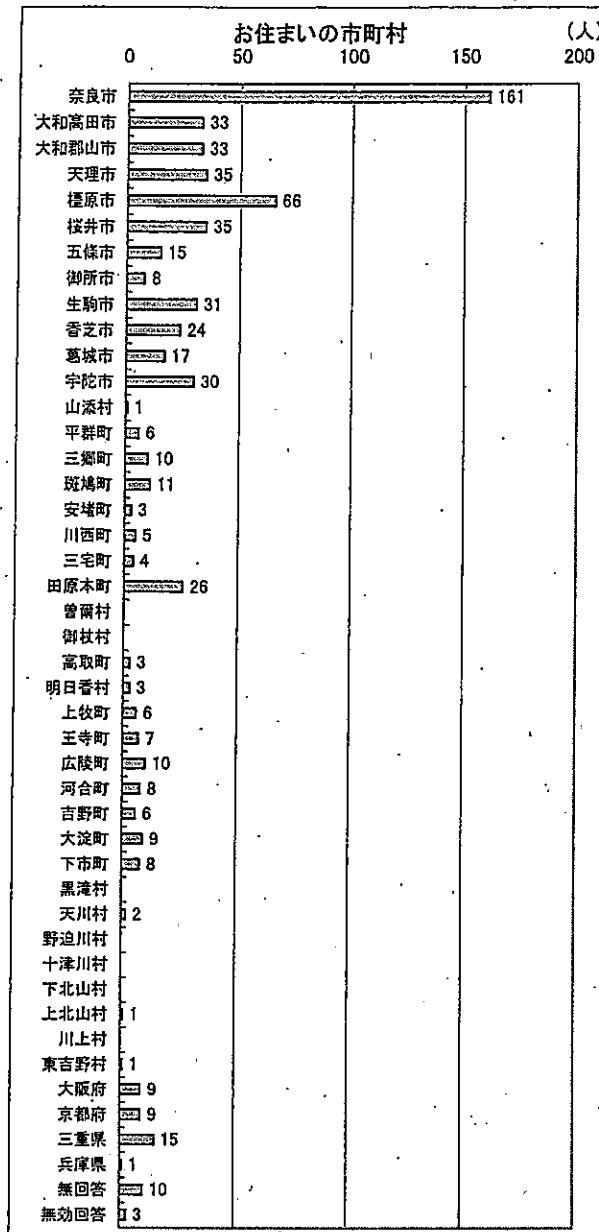
	回答人数	割合
男性	340	51.2%
女性	303	45.6%
無回答	21	3.2%
	664	



4. お住まいの市町村

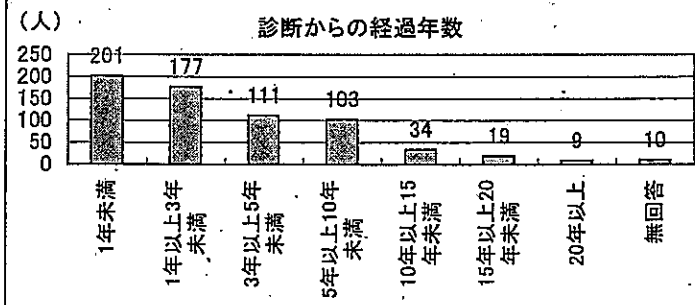
<県内>

奈良市	161
大和高田市	33
大和郡山市	33
天理市	35
橿原市	66
桜井市	35
五條市	15
御所市	8
生駒市	31
香芝市	24
葛城市	17
宇陀市	30
山添村	1
平群町	6
三郷町	10
斑鳩町	11
安堵町	3
川西町	5
三宅町	4
田原本町	26
菅爾村	
御杖村	
高取町	3
明日香村	3
上牧町	6
王寺町	7
広陵町	10
河合町	8
吉野町	6
大淀町	9
下市町	8
黒滝村	
天川村	2
野迫川村	
十津川村	
下北山村	
上北山村	1
川上村	
東吉野村	1
大阪府	9
京都府	9
三重県	15
兵庫県	1
無回答	10
無効回答	3



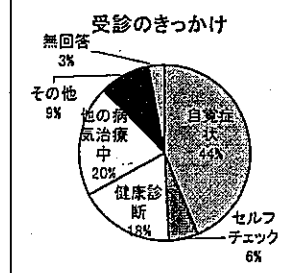
5. 診断からの経過年数

	回答人数	割合
1年未満	201	30.3%
1年以上3年未満	177	26.7%
3年以上5年未満	111	16.7%
5年以上10年未満	103	15.5%
10年以上15年未満	34	5.1%
15年以上20年未満	19	2.9%
20年以上	9	1.4%
無回答	10	1.5%
合計	664	



6. 受診のきっかけ

	回答人数	割合
自覚症状	289	44%
セルフチェック	38	6%
健康診断	118	18%
他の病気治療中	136	20%
その他	62	9%
無回答	21	3%
合計	664	

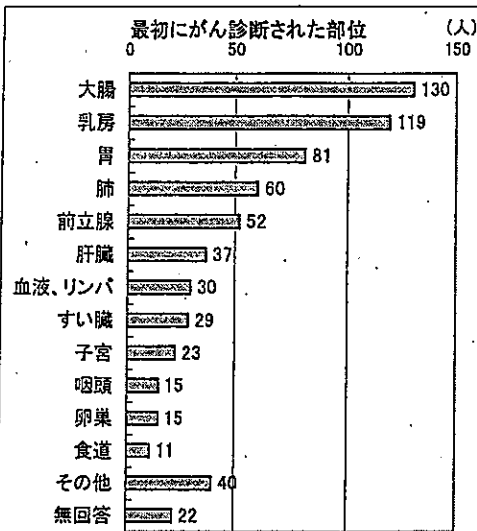


・受診のきっかけとしては、自覚症状による受診が最も多く、44%であった。

7. 最初にがんと診断された部位

	回答人数	割合
大腸	130	19.6%
乳房	119	17.9%
胃	81	12.2%
肺	60	9.0%
前立腺	52	7.8%
肝臓	37	5.6%
血液、リンパ	30	4.5%
すい臓	29	4.4%
子宮	23	3.5%
咽頭	15	2.3%
卵巣	15	2.3%
食道	11	1.7%
その他	40	6.0%
無回答	22	3.3%

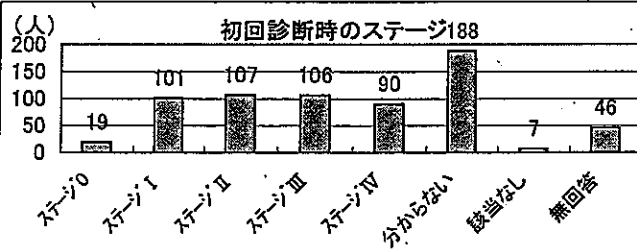
664



8. 初回診断時のステージ

	回答人数	割合
ステージ0	19	2.9%
ステージⅠ	101	15.2%
ステージⅡ	107	16.1%
ステージⅢ	106	16.0%
ステージⅣ	90	13.6%
分からない	188	28.3%
該当なし	7	1.1%
無回答	46	6.9%

664

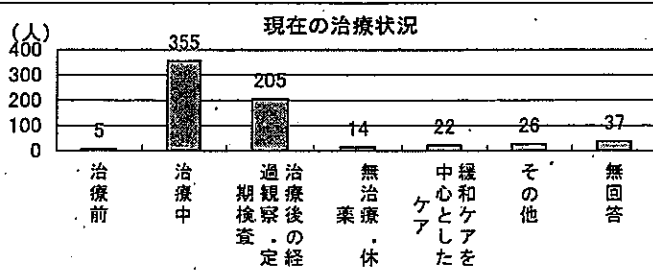


・初回診断時に、初期(ステージ0)は3%、浸潤がん(ステージⅠ～Ⅳ)が約60%であった。

9. 現在の治療状況

	回答人数	割合
治療前	5	0.8%
治療中	355	53.5%
治療後の経過観察・定期検査	205	30.9%
無治療・休薬	14	2.1%
緩和ケアを中心としたケア	22	3.3%
その他	26	3.9%
無回答	37	5.6%

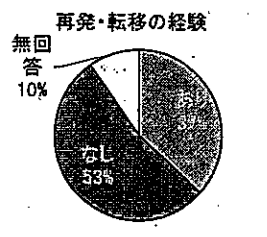
664



10. がん治療後の再発・転移の経験

	回答人数	割合
あり	243	36.6%
なし	356	53.6%
無回答	65	9.8%

664



11. 今までに受けた治療(複数回答)

	回答人数	割合*	外科的療法	化学療法	その他
外科的療法	463	69.7%	内視鏡 68	抗がん剤内服 171	レーザー 88
化学療法	437	65.8%	腹腔鏡 58	動脈内抗がん剤注入 91	温熱療法 11
放射線療法	126	19.0%	胸腔鏡 14	抗がん剤点滴 265	エタノール注射 4
その他	127	19.1%	外科手術 348	ホルモン療法 59	その他 32

664

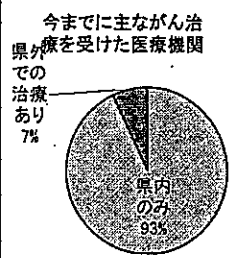
・外科的療法は70%、化学療法66%、放射線療法19%であった。

*割合は回答者総計(664人)に対する割合

12. 今までに主ながん治療を受けた医療機関

	回答人数	割合
奈良県内の医療機関のみ	618	93.1%
県外医療機関での治療あり	46	6.9%

664



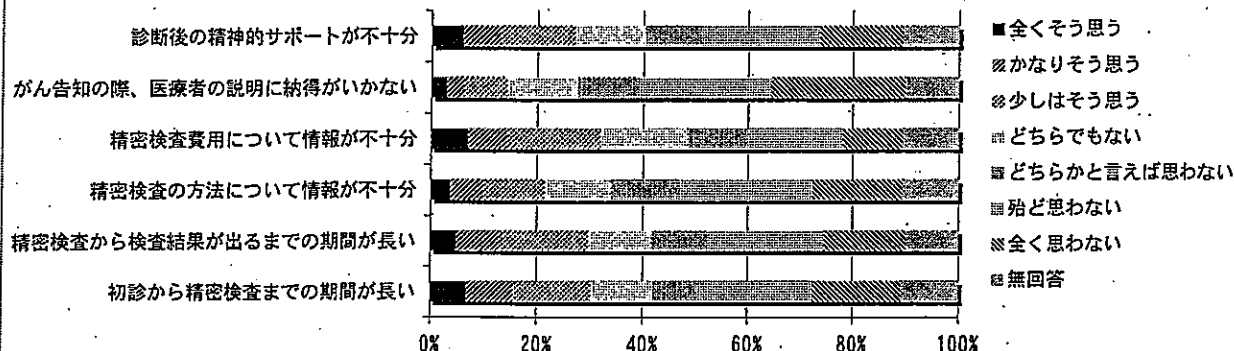
・奈良県内の医療機関のみで治療を受けた割合は93%、一度でも県外医療機関で治療を受けた割合は、7%であった。

B.これまでに医療機関で受けた診断や治療について

13. 診断時に不満や不安に思うことはありましたか

	初診から精密検査までの期間が長い		精密検査から検査結果が出るまでの期間が長い		精密検査の方法について情報が不十分		精密検査費用について情報が不十分		がん告知の際、医療者の説明に納得がいけない		診断後の精神的サポートが不十分	
回答選択肢	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
全くそう思う	45	6.8%	32	4.8%	24	3.6%	46	6.9%	19	2.9%	39	5.9%
かなりそう思う	58	8.7%	53	8.0%	41	6.2%	48	7.2%	21	3.2%	48	7.2%
少しはそう思う	98	14.8%	112	16.9%	78	11.7%	118	17.8%	55	8.3%	92	13.9%
どちらでもない	78	11.7%	80	12.0%	83	12.5%	111	16.7%	88	13.3%	89	13.4%
どちらかと言えば思わない	55	8.3%	70	10.5%	85	12.8%	75	11.3%	78	11.7%	71	10.7%
殆ど思わない	147	22.1%	149	22.4%	170	25.6%	121	18.2%	167	25.2%	151	22.7%
全く思わない	112	16.9%	103	15.5%	114	17.2%	76	11.4%	169	25.5%	105	15.8%
無回答	71	10.7%	65	9.8%	69	10.4%	69	10.4%	67	10.1%	69	10.4%
回答者合計	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%

診断時の不満、不安（対象：回答者総数の664名）



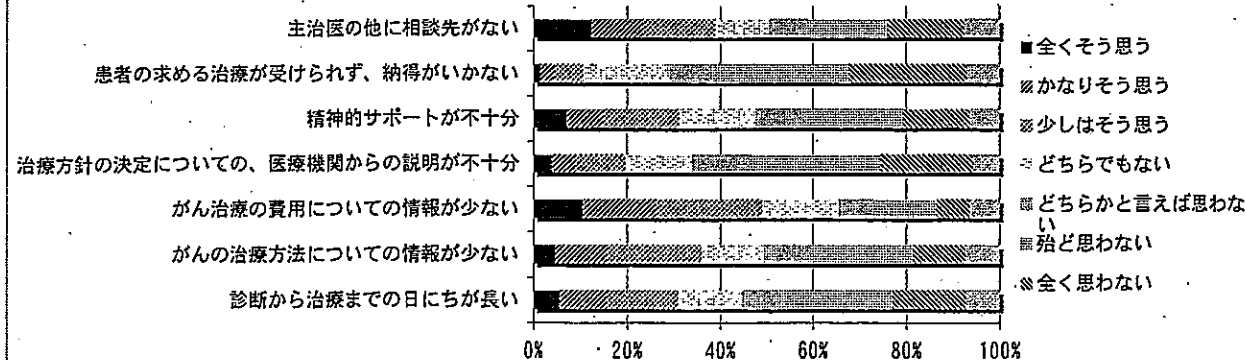
・『精密検査費用について情報が不十分』が31.9%、『初診～精密検査までの期間』『精密検査～検査結果が出るまでの期間』に不安、不満を感じた割合が、それぞれ30%を占めていた。

・現在近くの病院で世話になっているが、色々な事にこちらから質問しないと余り説明がなされない。ガン治療は自分で決める必要のあることを実感した。(58歳、男/患者)
 ・診察のあい間の告知で、ショックが大きかった。先生にとっては、多くの患者の1人ですが、患者にとっては、大きな問題であり、時間をとって、説明して欲しい。(49歳、女/家族)
 ・初診の時に「来るのが遅かったですね。1年前やもっと前に来られたらなんとかなったんですが。」この言葉は忘れられません！(46歳、女/患者)
 ・医療用語とか専門用語がたくさんあり、その1つ1つを聞くというか、質問するのが悪いような気がして後に不安が残る。(56歳、女/患者)
 ・告知、手術等説明を受けている際、中待ち会室に3名程いた。カーテンがあるだけの状況なので、すべて聞いていた感じ。13年前とは言え、「気のどくだなあ」との視線をあげながら診療室を出たが、プライバシーも何もないなあ、と不快であった。スタッフに少し配慮があれば・・・と今でも思い出す。(60歳、女/患者)

14. がんの治療を受けるにあたっての不満や不安に思うことはありましたか

	診断から治療までの日にちが長い		がんの治療方法についての情報が少ない		がん治療の費用についての情報が少ない		治療方針の決定についての、医療機関からの説明が不十分		精神的サポートが不十分		患者の求める治療が受けられず、納得がいけない		主治医の他に相談先がない	
回答選択肢	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
全くそう思う	37	5.6%	31	4.7%	70	10.5%	27	4.1%	47	7.1%	10	1.5%	82	12.3%
かなりそう思う	67	10.1%	73	11.0%	104	15.7%	33	5.0%	51	7.7%	19	2.9%	74	11.1%
少しはそう思う	101	15.2%	134	20.2%	152	22.9%	70	10.5%	110	16.6%	41	6.2%	103	15.5%
どちらでもない	93	14.0%	91	13.7%	110	16.6%	94	14.2%	109	16.4%	124	18.7%	78	11.7%
どちらかと言えば思わない	60	9.0%	68	10.2%	50	7.5%	88	13.3%	72	10.8%	71	10.7%	56	8.4%
殆ど思わない	153	23.0%	144	21.7%	87	13.1%	184	27.7%	138	20.8%	185	27.9%	112	16.9%
全く思わない	105	15.8%	74	11.1%	48	7.2%	130	19.6%	95	14.3%	167	25.2%	109	16.4%
無回答	48	7.2%	49	7.4%	43	6.5%	38	5.7%	42	6.3%	47	7.1%	50	7.5%
回答者合計	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%	664	100.0%

治療時の不満、不安（対象：回答者総数の664名）

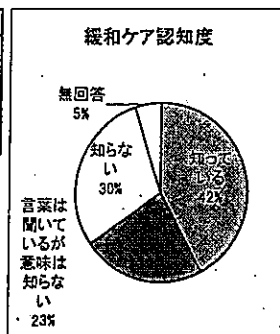


・『がん治療の費用についての情報が少ない』が49.1%と最も不満、不安を感じており、次いで『主治医の他に相談先がない』38.9%、『がんの治療方法についての情報が少ない』35.9%、『精神的サポートが不十分』31.4%であった。

・治療方針決定に関する説明内容はくわしく安心出来るような体制が必要と思う(72歳、男/患者)
 ・治療を受けるに当たって詳しい説明がなかった。(59歳、女/患者)
 ・患者の不安に対して医師の「安心を考え、希望を与えることば」が全くなく、高圧的で今だに古い体質の医師もいるのかとガク然としました。(65歳、男/患者)

15. 緩和ケアを知っていますか

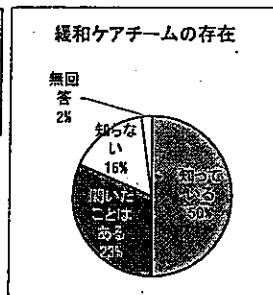
	回答人数	割合
知っている	280	42.2%
言葉は聞いているが意味は知らない	154	23.2%
知らない	197	29.7%
無回答	33	5.0%
	664	



・緩和ケアの言葉あるいは意味は、半数以上の回答者に認知されていない。

16. 緩和ケアチームの存在は知っていますか(15「知っている」と回答した人のみ)

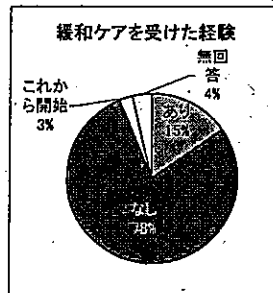
	回答人数	割合
知っている	139	49.6%
聞いたことはある	89	31.8%
知らない	46	16.4%
無回答	6	2.1%
	280	



・緩和ケアを知っている280人において、緩和ケアチームの言葉あるいは意味は、約半数の回答者に認知されていない。

17. 緩和ケアを受けた経験はありますか(15「知っている」と回答した人のみ)

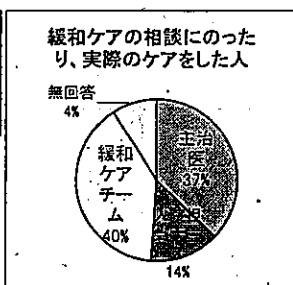
	回答人数	割合
あり	43	15.4%
なし	219	78.2%
これから開始	7	2.5%
無回答	11	3.9%
	280	



・緩和ケアを知っている280人の中で、緩和ケアの経験者は15%であった。

18. 緩和ケアの相談にのったり、実際のケアをしてくれたのはだれですか(17「あり」と回答した人のみ)

	回答人数	割合
主治医	16	37.2%
入院担当ナース	6	14.0%
緩和ケアチーム	17	39.5%
無回答	4	9.3%
	43	

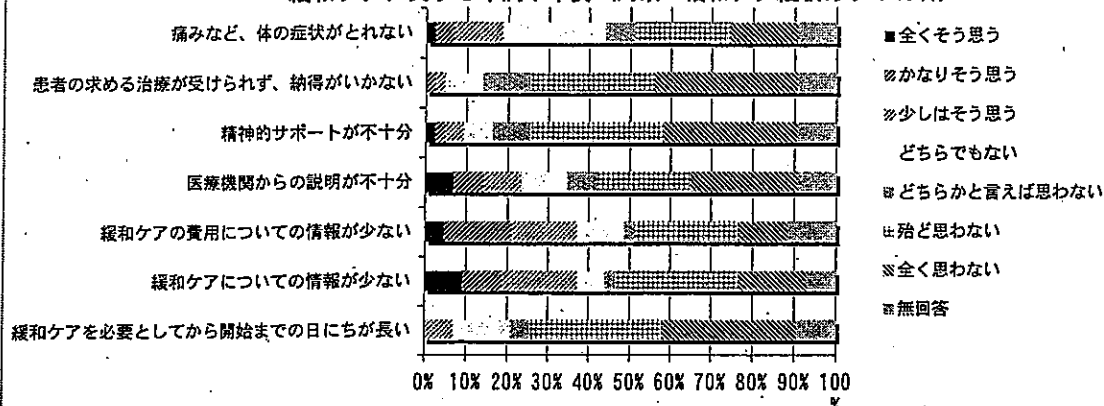


・緩和ケア経験者43人の主な相談者は、主治医、緩和ケアチームであった。

19. 緩和ケアについて不満や不安に思うことはありましたか (17. 「すでに緩和ケアの経験がある」と回答した人のみ)

回答選択肢	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
全くそう思う	0	0.0%	4	9.3%	2	4.7%	3	7.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.3%
かなりそう思う	0	0.0%	4	9.3%	7	16.3%	3	7.0%	1	2.3%	1	2.3%	2	4.7%
少しはそう思う	3	7.0%	8	18.6%	7	16.3%	4	9.3%	2	4.7%	1	2.3%	5	11.6%
どちらでもない	6	14.0%	3	7.0%	5	11.6%	5	11.6%	3	7.0%	4	9.3%	11	25.6%
どちらかと言えば思わない	2	4.7%	1	2.3%	1	2.3%	3	7.0%	4	9.3%	5	11.6%	3	7.0%
殆ど思わない	14	32.6%	13	30.2%	11	25.6%	10	23.3%	14	32.6%	13	30.2%	10	23.3%
全く思わない	14	32.6%	7	16.3%	5	11.6%	11	25.6%	14	32.6%	15	34.9%	7	16.3%
無回答	4	9.3%	3	7.0%	5	11.6%	4	9.3%	4	9.3%	4	9.3%	4	9.3%
回答者総計	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%

緩和ケアに関する不満や不安 (対象: 緩和ケア経験ありの43名)

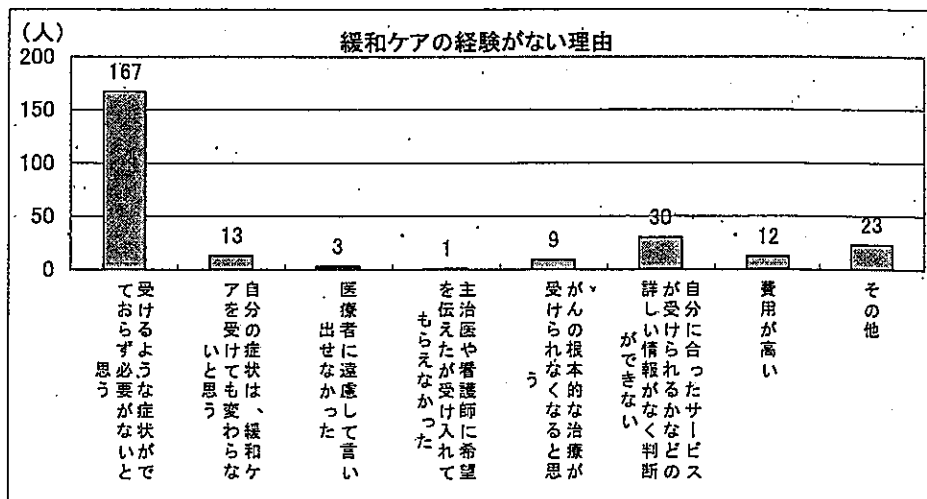


・『緩和ケアの費用についての情報が少ない』37.3%、『緩和ケアについての情報が少ない』37.2%であった。

- ・自分が緩和ケア受けたいが場所がわからない。(69歳、男/患者)
- ・やりたい事があると転院が決まった際に告げると、担当看護師が転院先での緩和ケアチームの手続きをして下さいました。体の痛みなどはなかったのですが、精神的に支えられ助かりました。痛みには身体的なもの他にも精神的や、色々な痛みがあるのをもっと認知されれば、緩和ケアを受けやすいのではないのでしょうか。それと、緩和ケア＝終末期のイメージが一般には強すぎ、もっと啓蒙が必要です。(49歳、女/患者)
- ・主人の病気を通じて緩和ケアの事を知りました。在宅ホスピスの協力を得て、自宅でケアし、本人の希望通り自宅で亡くなりました。緩和ケアのおかげで苦しむ事もなく、やすらかに終焉をむかえる事ができてよかったと思います。(68歳、男/遺族)

20. 緩和ケアの「経験がない」と答えた理由 (17. 緩和ケアの「経験がない」と回答した人のみ)

理由	回答人数	割合
受けるような症状がでておらず必要がないと思う	167	76.3%
自分の症状は、緩和ケアを受けても変わらない	13	5.9%
医療者に適度で言い出せなかった	3	1.4%
主治医や看護師に希望を伝えたが受け入れてもらえなかった	1	0.5%
がんの根本的な治療が受けられなくなると思う	9	4.1%
自分に合ったサービスが受けられるかなどの詳しい情報がなく判断ができない	30	13.7%
費用が高い	12	5.5%
その他	23	10.5%
合計	219	

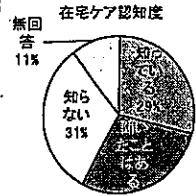


・緩和ケアの経験がない219人の中で、『受けるような症状がでておらず必要がないと思う』が76%であった。

- ・緩和ケアとはどのようなものか知らない人が多い。主治医は忙しいので看護師さんからの説明、紹介をしてほしい。(67歳、女/患者)
- ・緩和ケア自体なされてない。化療室の看護師は点滴だけで精一杯という感じです。忙しくされています。(69歳、男/患者)
- ・緩和ケアを受けられる機関が少ない。(88歳、女/遺族)
- ・抗がん剤で効いている間は医療機関で治療したい。(60歳、女/患者)
- ・「緩和ケア」というのがあるとは知っていたが、内容について知らないし、主治医、看護師からの説明がないから私には必要ないと判断し、私からも聞けなかった。(30歳、男/患者)

21.在宅ケア(在宅緩和ケア)を知っていますか

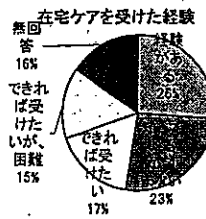
	回答人数	割合
知っている	192	28.9%
聞いたことはある	191	28.8%
知らない	211	31.8%
無回答	70	10.5%
	664	



・在宅医療を知っている割合は29%、意味あるいは言葉を知らない割合は61%であった。

22.在宅医療(在宅緩和ケア)を受けた経験がありますか(21「知っている」と回答した人のみ)

	回答人数	割合
経験がある	50	26.0%
知っているが望まない	51	26.6%
できれば在宅医療を受けたい	33	17.2%
できれば受けたいが、困難	28	14.6%
無回答	30	15.6%
	192	

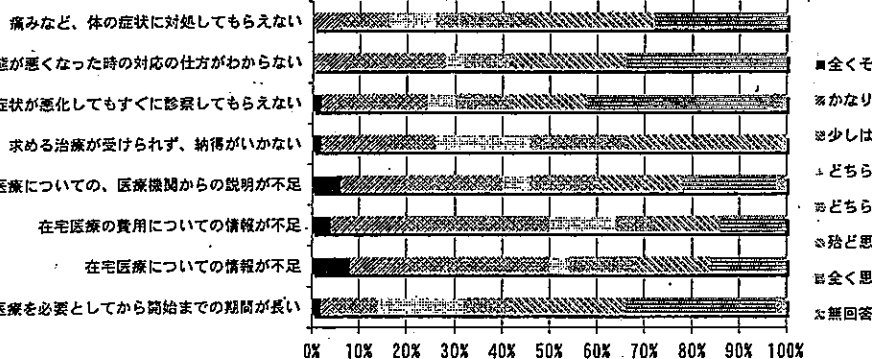


・在宅医療を知っている192人のうち、在宅医療の経験がある者は50人(26%)であった。

23.在宅医療(在宅緩和ケア)について不満や不安におもったことはありましたか(22「在宅医療の経験がある」と回答した人のみ)

	在宅医療を必要としてから開始までの期間が長い	在宅医療についての情報が不足	在宅医療の費用についての情報が不足	在宅医療についての、医療機関からの説明が不足	求める治療が受けられず、納得がいかない	症状が悪化してもすぐに診察してもらえない	急に状態が悪くなった時の対応の仕方がわからない	痛みなど、体の症状に対処してもらえない
回答選択肢	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合	回答者数 割合
全くそう思う	1 2.0%	4 8.0%	2 4.0%	3 6.0%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%
かなりそう思う	1 2.0%	6 12.0%	8 16.0%	7 14.0%	7 14.0%	2 4.0%	4 8.0%	3 6.0%
少しはそう思う	5 10.0%	15 30.0%	15 30.0%	10 20.0%	5 10.0%	9 18.0%	10 20.0%	5 10.0%
どちらでもない	9 18.0%	2 4.0%	7 14.0%	3 6.0%	10 20.0%	3 6.0%	2 4.0%	5 10.0%
どちらかと言えば思わない	5 10.0%	7 14.0%	4 8.0%	7 14.0%	10 20.0%	6 12.0%	5 10.0%	10 20.0%
殆ど思わない	12 24.0%	8 16.0%	7 14.0%	9 18.0%	17 34.0%	8 16.0%	12 24.0%	13 26.0%
全く思わない	16 32.0%	8 16.0%	7 14.0%	10 20.0%	0 0.0%	19 38.0%	17 34.0%	14 28.0%
無回答	1 2.0%			1 2.0%		2 4.0%		

在宅医療の不満、不安(対象:在宅医療経験ありの50名)



・半数の人が、『在宅医療の費用についての情報が不足』『在宅医療についての情報が不足』と感じている。『在宅医療についての医療機関からの説明が不足』が40%、『急に状態が悪くなった時の対応の仕方がわからない』が28%であった。

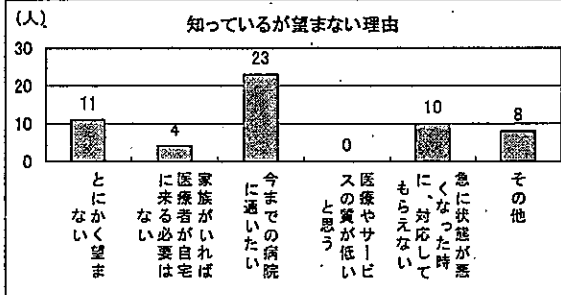
・毎日のように症状がかかるので、やはり不安でした。(79歳、女/遺族)

・とてもよい在宅医にめぐまれ、家で看とすることができ、家族も感謝しているが、一般的に、緩和ケアに精通した在宅医が少ないと感じる。(72歳、男/遺族)

・奈良県に在宅緩和ケアをしている医師が少い。24時間対応してもらえない現実がある。(85歳、女/患者)

24.22「知っているが望まない」と答えた理由(複数回答可)

	回答人数	割合
とにかく望まない	11	21.6%
家族がいれば医療者が自宅に来る必要はない	4	7.8%
今までの病院に通いたい	23	45.1%
医療やサービスの質が悪いと思う	0	0.0%
急に状態が悪くなった時に、対応してもらえない	10	19.6%
その他	8	15.7%
	51	

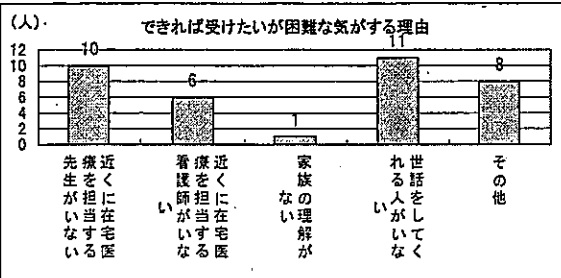


・「知っているが望まない」51人のうち、『今までの病院に通いたい』が、23人(45%)であった。

・家族にお世話をしてもらえない。高齢の両親との3人家族。(56歳、女/患者)
・自宅での介護負担が大である。(84歳、男/遺族)

25.「できれば受けたいが困難な気がする」の理由(複数回答可)

	回答人数	割合
近くに在宅医療を担当する先生がいない	10	35.7%
近くに在宅医療を担当する看護師がいない	6	21.4%
家族の理解がない	1	3.6%
世話をしてくれる人がいない	11	39.3%
その他	8	28.6%
	28	

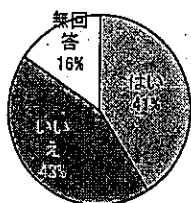


・「できれば受けたいが困難な気がする」28人のうち、『世話をしてくれる人がいない』11名(39%)、『近くに在宅医療を担当する先生がいない』10人(36%)であった。

・充分なケアをしてもらえない気がする。(51歳、女/家族)
・まだその段階でないで考えられない。(67歳、女/患者)
・家族に負担がかかると思う。(58歳、女/患者)

	回答人数	割合
はい	272	41.0%
いいえ	288	43.4%
無回答	104	15.7%
	664	

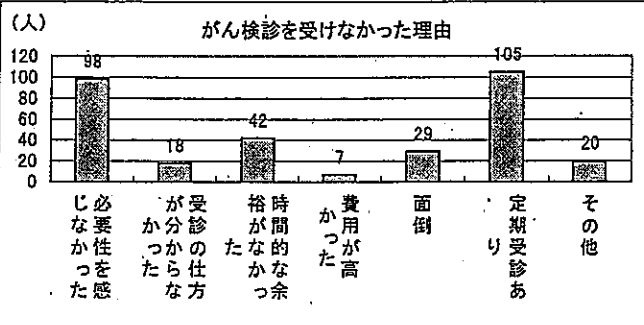
がん検診の受診



・がん検診の受診割合は、41%であった。
・未受診の主な理由(複数回答)は、『必要性を感じなかった』34%、『定期受診あり』37%であった。

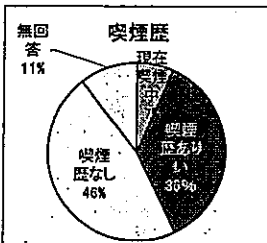
「いいえ」の理由(複数回答)

	回答人数	割合
必要性を感じなかった	98	34.0%
受診の仕方が分からなかった	18	6.3%
時間的な余裕がなかった	42	14.6%
費用が高かった	7	2.4%
面倒	29	10.1%
定期受診あり	105	36.5%
その他	20	6.9%
	319	



27. あなたは現在タバコを吸っていますか

	回答人数	割合
現在喫煙中	44	6.6%
喫煙歴あり	240	36.1%
喫煙歴なし	310	46.7%
無回答	70	10.5%
	664	



・喫煙中あるいは喫煙歴ありの割合は、合わせて43%、喫煙歴なしは47%であった。

28. 平均すると1日あたり何本のタバコを吸っていますか。または吸っていましたか。

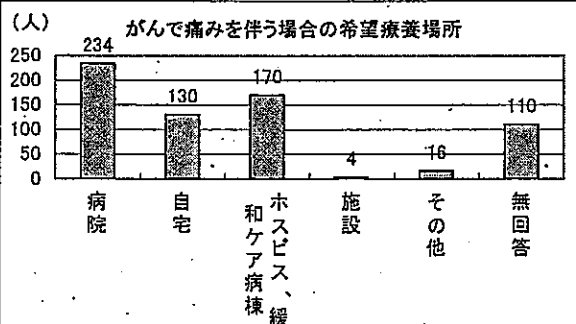
29. タバコを吸い始めて今年で通算何年になりますか。(禁煙した年数除く)

	平均	最小値	最大値
1日当たりの喫煙本数	24	2	200
通算の喫煙年数	33	5	75

・喫煙中あるいは喫煙歴ありのグループにおいて、喫煙本数は、1日あたりで平均24本であった。
・通算の喫煙年数は平均33年、最短5年～最大75年と幅が大きい。

30. がんて痛みを伴う場合に過ごしたい場所はどこですか

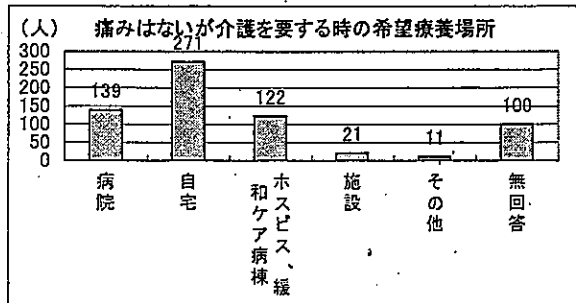
	回答人数	割合
病院	234	35.2%
自宅	130	19.6%
ホスピス、緩和ケア病棟	170	25.6%
施設	4	0.6%
その他	16	2.4%
無回答	110	16.6%
	664	



・痛みがある場合の希望療養場所は、病院が35%、ホスピス・緩和ケア病棟が26%と、医療機関による療養を希望する割合が約60%を占める。

31. がんて痛みはないが、介護が必要な時に過ごしたい療養場所はどこですか

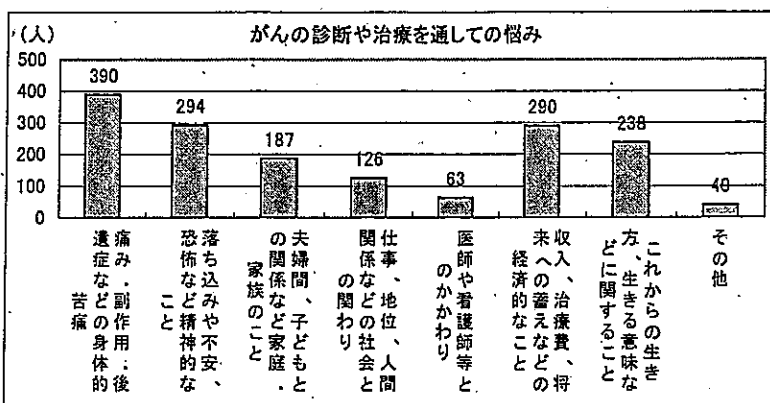
	回答人数	割合
病院	139	20.9%
自宅	271	40.8%
ホスピス、緩和ケア病棟	122	18.4%
施設	21	3.2%
その他	11	1.7%
無回答	100	15.1%
	664	



・痛みがない場合の希望療養場所は、自宅が41%と、痛みを伴う場合の希望療養場所に比べて高い。

	回答人数	割合
痛み・副作用・後遺症などの身体的苦痛	390	58.7%
落ち込みや不安、恐怖など精神的なこと	294	44.3%
夫婦間、子どもとの関係など家庭・家族のこと	187	28.2%
仕事、地位、人間関係などの社会との関わり	126	19.0%
医師や看護師等とのかかわり	63	9.5%
収入、治療費、将来への蓄えなどの経済的なこと	290	43.7%
これからの生き方、生きる意味などに関すること	238	35.8%
その他	40	6.0%

664

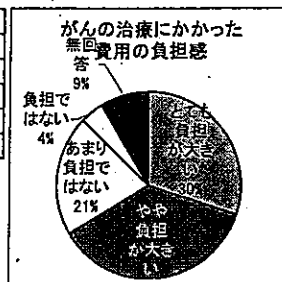


・がん治療の悩み(複数回答)の上位は、身体的苦痛が59%、精神的負担、経済的負担がそれぞれ44%であった。

33. がんの治療にかかった費用や、どの程度の負担感がありましたか

	回答人数	割合
とても負担が大きい	199	30.0%
やや負担が大きい	241	36.3%
あまり負担ではない	139	20.9%
負担ではない	28	4.2%
無回答	57	8.6%

664

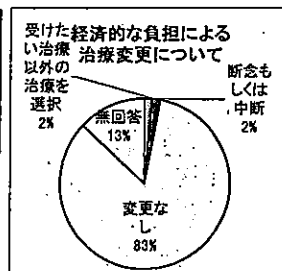


・がん治療の負担は、負担が大きい(とても/やや)が66%、負担ではないが25%であった。

34. 経済的な負担が原因となり、治療を変更したことがありますか

	回答人数	割合
断念もしくは中断	10	1.5%
受けた治療以外の治療を選択	10	1.5%
変更なし	558	84.0%
無回答	86	13.0%

664

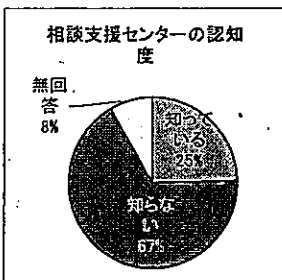


・治療変更の経験はないが84%、変更あり、断念もしくは中断が合わせて3%であった。

35. 相談支援センターを知っていますか

	回答人数	割合
知っている	164	24.7%
知らない	444	66.9%
無回答	56	8.4%

664

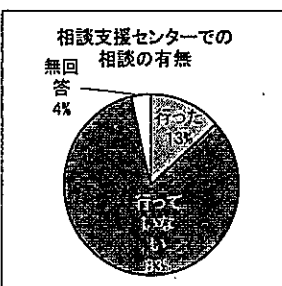


・相談支援センターを知っている割合は25%、知らないが67%であった。

36. 相談支援センターに相談に行きましたが(34「知っている」と回答した人のみ)

	回答人数	割合
行った	22	13.4%
行っていない	136	82.9%
無回答	6	3.7%

164



・相談支援センターを知っている164人のうち、利用経験ありは22名(13%)にとどまっている。

	回答人数	割合
解決した	17	77.3%
解決しない	5	22.7%
	22	

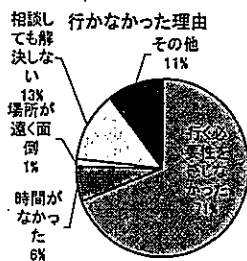
相談したことは解決したか



・利用経験ありの22人のうち、17人(77%)の相談が解決済みであった。

38. 行かなかった理由を選択してください(複数回答可)(35「行っていない」と回答した人のみ)

	回答人数	割合
行く必要性を感じなかった	97	71.3%
時間がなかった	9	6.6%
場所が遠く面倒	2	1.5%
相談しても解決しない	18	13.2%
その他	15	11.0%
	136	



・相談支援センターを知っているが利用経験のない136人において、利用なしの理由は、必要性を感じなかったが71%を占めていた。

- ・何を相談していいのかが解からない。(30歳、男/患者)
- ・実態がよく理解できていません。(77歳、男)
- ・どこにあるのか、わかりません。(58歳、女/家族、59歳、女/患者)
- ・がん患者会に参加、支援センター看護師さんの指導等があり充分満足しています。なごやかで、明るくホットしています。(76歳、女/患者)

相談員必携

奈良県のがん医療について

がん対策推進計画

アクションプラン

奈良県がん診療連携拠点病院

奈良県がん相談支援センター

奈良県がん診療医療機関

近畿圏のがん相談支援センター

患者サロン・患者会について

ピアサポーターによる支援

相談支援プロセス

相談員の役割 10の原則

がん相談員の業務手順

相談業務プロセスとコミュニケーション

医療費などの負担軽減について

療養中の生活費など経済的なこと

療養中の所得保障について

がん治療・療養生活に関する相談

セカンドオピニオン

緩和ケア

在宅療養

医療への不安や苦情

心理者社会的側面の支援

がんやがん医療に関する情報収集は

情報資源の収集スキルと提供

奈良県のがん医療について

がんは、奈良県においても死亡原因の第1位で増加経過をたどっています。平成20年は3815人で死亡総数に占めるがん割合は30.8%（全国30.0%）となっています。

がんの部位別で死亡数を見ると、男性では肺がんが最も多く、胃がん、大腸がんと続き、女性では胃がんが最も多く、肺がん、結腸がんが続いています。

部位別のがん死亡率は（75歳未満年齢調整死亡率、人口10万対2007年データー）を全国と比較すると、肺がん、大腸がんなどは全国平均よりも高くなっています

奈良県がん対策推進計画はがん患者を含めた県民が、進行、再発と言った様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられることを目指して、「がんによる死亡者の減少」を目標にがん予防、早期発見、医療の充実の推進。「がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上」を目標に初期治療段階からの緩和ケアの実施、がん医療のさらなる充実、相談支援や情報提供など体制整備を目指しています。

がん対策推進アクションプランではがん医療分野（放射線療法・化学療法、緩和ケア、在宅医療、医療機関整備）、相談支援分野（相談支援・情報提供）、がん予防・がん早期発見分野ごとに、それぞれに目標に向けて、具体的計画のもと「奈良県がん対策推進協議会」において検討実行しています。

がん対策推進計画アクションプラン

がん医療分野

放射線治療・化学療法

緩和ケア

在宅医療

医療機関の整備

相談支援分野

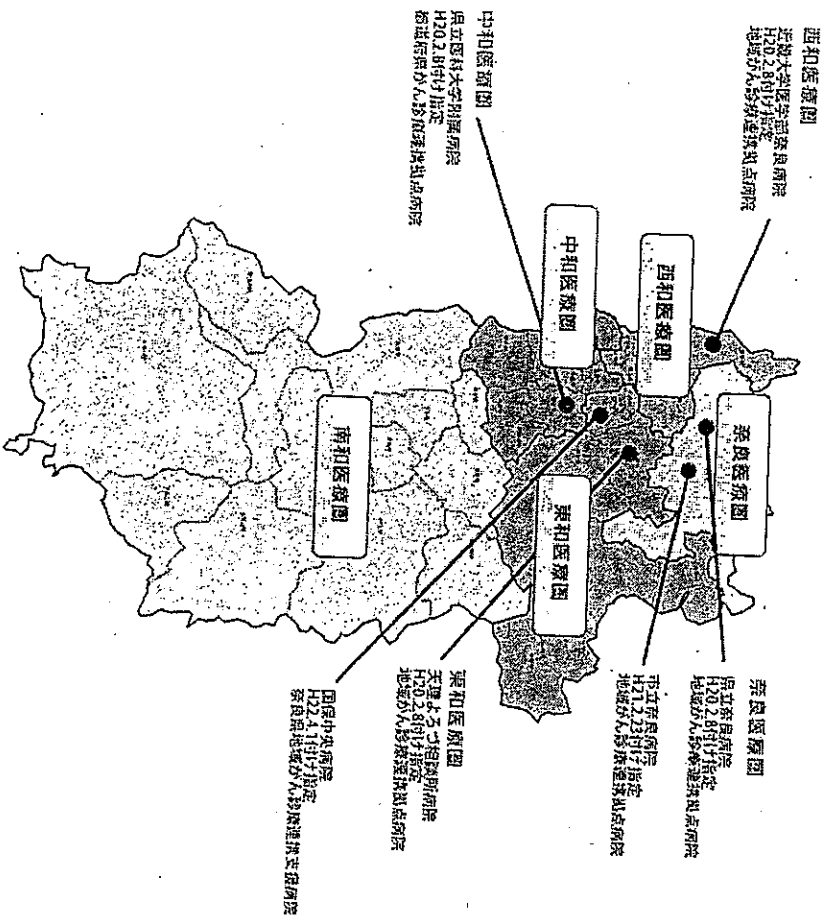
相談支援

情報提供

がん予防・がん早期発見

奈良県がん診療連携拠点病院

自分の健康と病気がよくわかるポータルサイト
(地図挿入)



奈良県内のがん相談支援センター

病院名	名称	連絡先
奈良県立奈良病院	相談支援室	奈良市平松1-30番1号 TEL 0742-46-6001 FAX 0742-46-7666 平日
天理よろづ相談所病院	がん相談支援センター	天理市三島町200 TEL 0743-63-5611(内:8276) FAX 0743-63-6837 平日
国保中央病院	地域支援センター	田原本町宮古404番地の1 TEL 0744-32-8800 FAX 0744-32-8811 平日
近畿大学医学部奈良病院	地域医療連携室	生駒市乙田町1248番の1 TEL 0743-77-0880 FAX 0743-77-0901 平日
市立奈良病院	地域医療連携室	奈良市東紀寺町1丁目50番1号 TEL 0742-24-1251 FAX 0742-24-1259 平日
県立医科大学附属病院	医療相談室	橿原市四条町840 TEL 0744-22-3051(内:3284) FAX 0722-29-0836 平日

がん診療医療機関一覧

医療圏	病院名	がん	胃がん	大腸がん	乳がん	肝がん	膵臓がん	胆嚢がん
		手術	放射線	手術	放射線	手術	放射線	手術
奈良	市立奈良病院	3	24	46	32	2	47	102
	奈良医療センター	0	0	3	0	0	0	0
	県立奈良病院	68	45	181	88	1	47	93
	済生会奈良病院	0	0	10	57	0	7	82
	浪井病院	0	0	0	0	0	0	0
	奈良西都病院	0	0	0	3	0	3	5
	西奈良中央病院	0	0	0	4	0	0	12
	おがたに病院	0	0	0	10	0	0	11
	吉田病院	0	0	14	0	1	17	0
	高の原中央病院	0	0	0	1	0	5	33
	奈良東九条病院	0	0	0	0	0	0	2
	石洲会病院	0	0	0	1	0	0	0
	西の京病院	0	0	0	6	0	3	18
	奈良社会保険病院	0	25	1	37	4	18	21
	田北病院	0	0	0	1	0	2	0
	郡山青葉病院	0	0	0	2	0	2	0
	白鹿病院	0	0	0	0	0	0	5
	阪南中央病院	0	0	0	4	0	0	31
	近大奈良病院	17	34	124	123	3	32	157
	県立三重病院	0	0	0	26	0	329	41
	東王病院	0	0	0	1	0	0	4
	昭和記念病院	0	0	0	16	0	0	21

医療圏	病院名	がん	胃がん	大腸がん	乳がん	肝がん	膵臓がん	胆嚢がん
		手術	放射線	手術	放射線	手術	放射線	手術
東和	天理市立病院	0	0	0	19	0	5	26
	天理よろづ相談所	223	191	384	184	9	216	131
	高井病院	5	157	67	22	10	68	14
	済生会中和病院	0	0	46	33	0	84	57
	山の辺病院	0	0	0	0	0	2	0
	奈良中央病院	0	0	0	33	0	194	38
	宇陀市立病院	0	0	3	13	0	6	6
	大和郡市立病院	0	0	0	66	0	32	94
	中井記念病院	0	0	31	65	0	275	132
	平尾病院	0	0	0	0	0	0	0
	奈良西都病院	0	0	0	0	0	0	0
	昭和記念病院	0	0	0	0	0	0	0
	済生会御所病院	0	0	0	0	0	0	0
	東陽香芝病院	0	0	0	0	0	0	0
	県立五條病院	0	0	0	0	0	0	0
	奈良社会保険病院	0	0	0	0	0	0	0
	即立大塚病院	0	0	0	0	0	0	0
合計		421	632	1259	1023	35	1449	1340

※手術件数等は、平成21年7月31日地域医療連携調査による(平成20年度実績)
 ※がん登録の△は一部実施
 ※済生会御所病院の化学療法件数については、部位別未集計。(五大がん合計159件)
 ※奈良社会保険病院および近大奈良病院については、平成19年度の実績。

専門看護師・認定看護師(がん医療・看護関連) 配置医療機関

施設名	領域	人
奈良県立医科大学附属病院	がん看護専門看護師	2
	緩和ケア認定看護師	2
	がん化学療法看護認定看護師	1
	がん放射線療法看護認定看護師	1
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
	地域看護専門看護師	1
天理よろづ相談所病院	緩和ケア認定看護師	1
	がん化学療法看護認定看護師	1
	がん性疼痛看護認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
奈良県立奈良病院	がん性疼痛看護認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
市立奈良病院	緩和ケア認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
	乳がん看護認定看護師	1
近畿大学医学部奈良病院	緩和ケア認定看護師	1
組合立国保中央病院	緩和ケア認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1

施設名	領域	人
奈良県立五條病院	がん性疼痛看護認定看護師	1
	緩和ケア認定看護師	1
	がん化学療法看護認定看護師	1
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
宇陀市立病院	緩和ケア認定看護師	1
済生会 奈良病院	緩和ケア認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
済生会 御所病院	緩和ケア認定看護師	1
済生会 中和病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
	がん性疼痛看護認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
健生会土庫病院	緩和ケア看護認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
	緩和ケア認定看護師	1
奈良医療センター	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
天理市立病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
奈良社会保険病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
	緩和ケア認定看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1
郁慈会 服部記念病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	2
	緩和ケア認定看護師	2

施設名	領域	人
医療法人平成記念病院	皮膚・排泄ケア	1
西奈良中央病院	緩和ケア認定看護師	1
中井記念病院	がん化学療法看護認定看護師	1
岡谷会 おかたに病院	緩和ケア認定看護師	1
訪問看護ステーション ぬくもりポート	緩和ケア認定看護師	1
メディカルチャート登美ヶ丘	がん化学療法看護認定看護師	1
ひばりメディカルクリニック 奈良在宅ホスピスセンター	地域看護専門看護師	1
奈良市役所保健福祉部健康 増進課	地域看護専門看護師	1
	皮膚・排泄ケア認定看護師	2

近畿圏の相談支援センター

相談支援センター名	問い合わせ先	対応曜日・時間	相談方法
			対面 電話 FAX 電子メール
三重大学医学部附属病院 医療福祉支援センター	津市江戸橋2-174 059-231-5444直通、 059-232-1111(内線5152)	月～金:8時30分～17時15分	○ ○ × ×
三重中央医療センター がん相談支援センター	津市久居明神町2158-5 059-259-1211(内線1221)	月～金:9時30分～17時	○ ○ × ○
三重県立総合医療センター がん相談支援センター(地域連携室内)	四日市市大字日永5450-132 059-345-2321(内線2626)	水・金:9時30分～11時30分	○ ○ × ×
鈴鹿中央総合病院 医療福祉相談センター(がん相談窓口)	鈴鹿市安楽町山之花1275-53 059-384-2226直通	月～金:8時30分～16時30分	○ ○ × ×
山田赤十字病院 がん相談窓口(医療社会事業部内)	伊勢市御園町高向610 0596-28-2171代表	月～金:9時30分～17時	○ ○ × ×
松阪中央総合病院 がん相談窓口(医療福祉相談室内)	松阪市川井町字小望102 0598-21-5255(内線2249)	月～金:8時30分～16時30分	○ ○ × ×
和歌山県立医科大学附属 がん相談支援センター(地域連携室内)	和歌山市紀三井寺811-1 073-441-0778直通、 073-441-2300(内線3206-3207)	平日:9時～17時30分	○ ○ × ×
日本赤十字社和歌山医療センター 相談支援センター(医療連携課内)	和歌山市小松原通4-20 073-422-4171(内線1331)	平日:9時～17時30分	○ ○ × ×
公立那賀病院 相談支援センター(地域連携室内)	紀の川市打田1282 0736-78-3892直通	月～金:9時～16時	○ ○ × ×
橋本市市民病院 地域連携室 がん相談支援室	橋本市小峰台2-8-1 0736-34-6116直通	月～金:9時～16時	○ ○ ○ ○
社会保険紀南病院 がん相談支援センター	田辺市新庄町46-70 0739-22-5000代表	月～金:8時30分～17時15分	○ ○ × ×
南和歌山医療センター がん相談支援センター(地域医療連携室内)	田辺市たきない町27-1 0739-26-7063直通、 0739-24-0813直通	月～金:8時30分～17時	○ ○ ○ ○

相談支援センター名	問い合わせ先	対応曜日・時間	相談方法
			対面 電話 FAX 電子メール
京都大学医学部附属病院 がん相談支援室	京都市左京区聖護院川原町54 075-366-7505直通	月～金:9時～12時・13時30分～16時	○ ○ × ×
京都府立医科大学附属病院 がん相談支援窓口(地域医療連携室内)	京都市上京区河原町通広小路上北植井町465 075-251-6283直通	月～金:9時～12時・13時～15時	○ ○ × ×
京都桂病院 がん相談支援センター	京都市西京区山田平尾町17 075-391-5811代表	平日9時～17時	○ ○ × ○
京都市立病院 がん診療相談窓口、総合相談(地域医療連携室内)	京都市中京区壬生東高田町1-2 075-311-5311(内線2115)	月～金:8時30分～17時15分	○ ○ × ○
京都第一赤十字病院 がん相談支援室	京都市東山区本町15-749 075-561-1121(内線3715)	平日9時～17時	○ ○ × ×
京都第二赤十字病院 医療福祉相談室	京都市上京区釜座通丸太町上ル香常町35-5 075-212-6122直通	月～金:8時30分～17時	○ ○ ○ ○
京都医療センター 地域医療ケア支援センター	京都市伏見区深草向畑町1-1 075-641-9161代表	月～金:8時30分～17時15分	○ ○ ○ ×
舞鶴医療センター がん相談窓口(地域医療連携室内)	舞鶴市字行永2410 0773-62-2680代表	月～金:8時30分～17時15分	○ ○ × ×
福知山市市民病院 医療福祉相談室	福知山市厚中町231 0773-22-2101(内線2126)	月～金:8時30分～17時	○ ○ ○ ○

その他のがん相談支援

国立がんセンターがん対策情報センターのホームページ

がん情報サービス

日本対がん協会の電話相談

がん相談ホットライン 03-3562-7830

がん電話情報センター (CTIS) 0570-055224

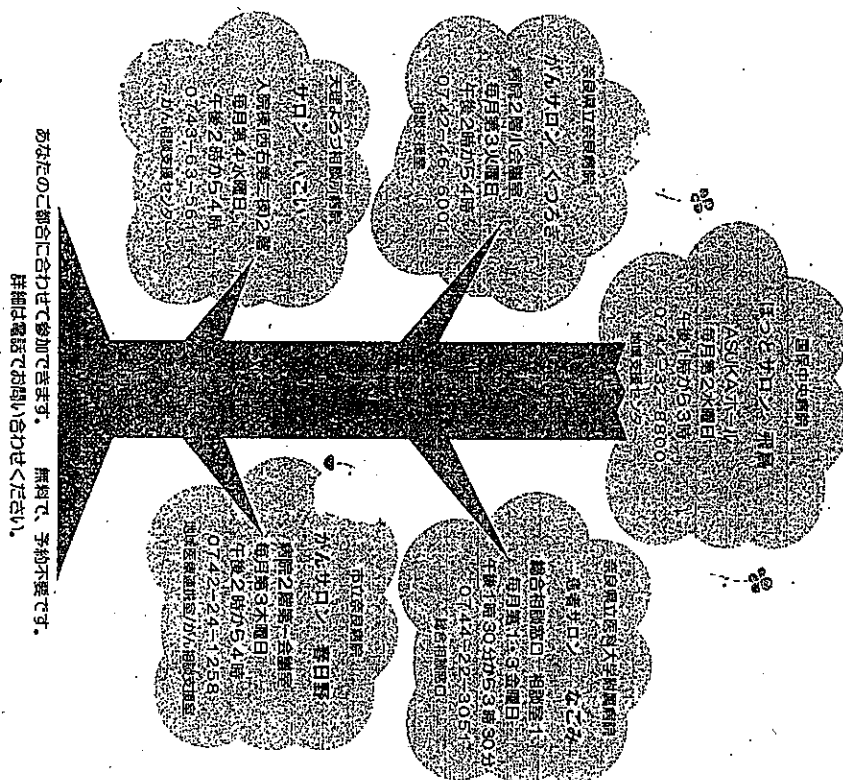
患者サロン・患者会について

がんサロンのご案内

がん患者さんや家族の方が、体験した人でなければ分からない

「辛さ」や「生活上の工夫」などを語り合える場です。

*がんサロンは、がん患者さんや家族の方、医・療・養、勉強している方など、誰でも参加できます。
*サロンを開いている病院内、遠隔地や入院したことがなくても参加できます。



ピアサポーターによる支援

ピアサポーターは、がん体験者の患者または家族（ピア）が、がん患者やその家族の療養上の問題や心の悩みなどに対して、自らの体験に基づくサポートを行う。

県内では23年7月現在11名の方が、患者サロンや患者会で活動されています。

21年の県が行う養成研修を受講したサポーター
個人名の表記は……

相談員の役割

10 の原則

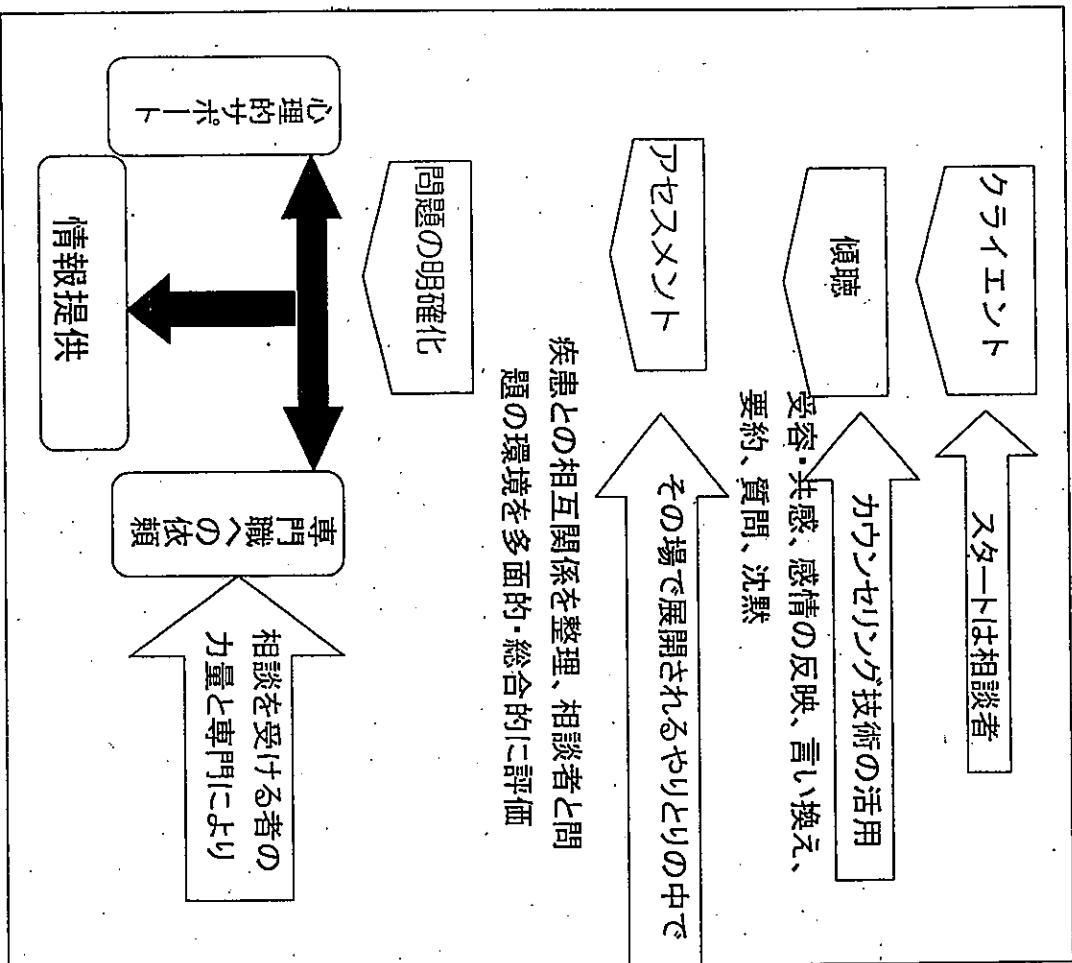
1. 相談者にとって良い治療のアクセスを保護・促進する
2. 担当医との関係を改善・強化する
3. 相談者の情報の整理を助ける
4. 行動に結びつく決定を促す。
5. 面談、電話、など各相談スタイルに特性と限界を認識する。
6. 相談者の情緒的なサポートをする。
7. 相談者を他部門・他機関に円滑に依頼する。
8. 継続的なアクセスをする。
9. 組織として相談窓口を保護し、改善する。
10. データーを蓄積・分析しながら、相談業務の改善に役立てる。

	行うべきこと	行っていないこと
1	今後の行動の方向性の明確化	対象の主訴への即時解決の最優先
2	担当医の判断や振る舞いの解釈を相談者と一緒に考える	相談者の主治医に対する不満や疑念に同意。セカンドオピニオンに準じるような判断。
3	主訴の背景にある客観的な情報をアクセスメント。相談途中で、適時内容を確認・整理	主訴にあった情報源へのアクセス方法の具体的提示
4	「次ぎにまずしなければならぬこと」を具体的に提示	優先順位を考えない多数の選択肢の提示
5	相談者の主訴、主観と事実の差異を常に判断。対応困難なこと	相談者の情報は {常に真} で {現状で最大限の情報} として位置づける。

がん専門相談員のための学習引きより引用

	行うべきこと	行っていないこと
6	相談者の感情を受け止めると同時に、適切な距離を取り中立的な立場を維持する。	一体感を感じられるまで対象と波長を合わせ同情する。
7	依頼先に対し、必要な情報、解決すべき課題などの依頼を明確化伝達する。依頼先で解決出来ることと限界をあらかじめ対象に伝える	相談者、他部門、他機関によってネガティブな情報を不用意に伝える。
8	必要に応じて次回相談日程を決め、適宜再評価を実施する。	資料をまとめて渡し、一度の相談で済ませる。
9	相談時間の枠組みを設定 (直接面談 40 分、電話 20 分) 窓口の目標、位置づけ、守備範囲を共有しスタッフ同士の力量や特性を正確に認識する。相互にフォローし、フイードバックを組織の改善に結びつけるチームには誠実かつ慎重に対応する。	守備範囲を超えてサポートを徹底する。あるいは過剰に防衛的な対応を取る。相談者の対応を中断して別の対象に対応する。
10	他部門と共有することを念頭に、相談内容、解決方法をデーターベース化するなど加工する	記録は業務終了後まとめて作成する。

がん相談員の業務手順



がん専門相談員のための学習手引きから引用

相談業務プロセスとコミュニケーション

1. 相談業務のプロセス

- 1) 傾聴による信頼関係の構築
情報収集と心理的サポートの提供を心がける
 - 2) アセスメント
問題を取り巻く環境を多面的・総合的に評価する
 - 3) 問題の明確化から情報と支援の提供
支援の目的を明確に、確認合意。正確な情報提供
 - 4) モニタリング
結果の確認と相談者の状況の変化の確認
 - 5) 相談支援の集結
達成の確認、他機関への紹介が必要か否かの評価
 - 6) フォローアップ
約束した資料などに提供、関係者間での情報共有
2. コミュニケーション技術
 - 1) 非言語的コミュニケーション
 - 2) 面接における基本的姿勢とコミュニケーション
 - 傾聴 : 受容しわかってもらうとする積極的な聴き方
 - 受容 : あるがままに受け止める
 - 共感 : 表出された感情を反映 (reflect)
 - 感情の反映 : 感情に焦点を当て、そのままの言葉で返す
 - 言い換え : メッセージの意味することに焦点を当てる
 - 要約 : 相談者の述べたいことの要点を確認
 - 質問 : 「はい」「いいえ」と自由に語る質問方法
 - 沈黙 : 否定的にとらえず、意味を見極める

医療費などの負担軽減について

保険者別の問い合わせ先

治療のための医療費が高額になる場合や、助成制度や支援する仕組みについて代表的なものを紹介します。

医療費が高額になったとき 高額療養費制度

1ヶ月の医療費の自己負担額が高額になった場合に、自己負担額を超えた部分が払い戻される制度です。(差額ベッド代・食事療養費は対象外) 加入している医療保険(保険者)、により異なります。

70才未満

所得区分	外来・入院
一般	80,100円+(総医療費-267,000)×1%
上位所得者	150,000円+(総医療費-500,000)×1%
低所得者	35400円

70才以上

所得区分	外来(個人毎)	外来+入院(世帯合算)
一般	12,000円	44,400円J
現役並 所得者	44,000円	80100円+(総医療費-267,000)×1%
低所得者1	8,000円	15,000円
低所得者2	8,000円	24,000円

*70歳以上の方は自動的に自己負担額となります。

低所得 I・IIの方は事前申請で限度額適用・標準負担額認定証

*入院：事前申請で高額療養費自己負担額適用認定証

*外来：貸付制度 高額療養費受領委任払い制度を利用

パソコンの利用でも検索できます。

高額療養費制度お助けガイド

保険者のホームページ

療養中の生活費など経済的なこと

税金の負担を減らしたい

医療費控除

納税者が、自分や家族のために医療費を支払った場合
所得税の医療費控除が受けられます。領収書を添付して
確定申告書を最寄りの税務署に提出してください。

毎年2月16日～3月15日

{医療費控除の対象となる金額}

(実際に支払った額-保険金などで補填される金額) -10万円
10万円から200万円まで

問い合わせ先 最寄りの税務署

-24-

療養などの資金を借りたい

生活福祉資金貸付制度

低所得世帯・高齢者世帯・障害者世帯に対して経済的自立と
生活意欲向上のために公的資金の貸し付けをおこなっています。

貸付利子：年3% (修学資金、療養・介護等資金は無利子)

連帯保証人：1名(資金種類、世帯状況などにより連帯借受人必要)

貸付金返還：措置期間(無利子)経過後、月賦・半月賦・年賦

問い合わせ先 市町村の社会福祉協議会・民生委員

小児がんの医療費助成を受けたい

小児慢性特定疾患治療助成制度

小児慢性特定疾患治療研究事業により医療費の負担を軽減
することが出来ます。

問い合わせ先 現在治療を受けている医療機関

市町村役所の

母子家庭などの助成を受けたい

ひとり親家庭医療助成制度

医療保険に加入している、ひとり親家庭の親と子は病気
等のために医療機関で診療を受けた時、窓口で支払う自己
負担額を助成する。所得制限があり、満18歳に達する日以後、
最初の3月31日までの間にある児童を扶養している方。

問い合わせ先 市町村役所の児童福祉主管課

体に障害が残ったのでサポートを受けたい

身体障害者手帳の取得

視覚障害、聴覚または平衡機能障害、音声言語または
咀嚼機能障害、肢体不自由、心臓・腎臓・呼吸器、膀胱または
直腸・小腸・機能障害、免疫の機能障害のかたにその障害の程度に
応じて発行される。受けられるサービスには、医療費の助成や手
当、補装用具や日常生活用具の支給、税金などの免税

問い合わせ先 現在治療を受けている医療機関

市町村役所の福祉課

療養中の所得保障について

会社を休んで療養する場合の保障

傷病手当金

会社に勤める人が、病気やけがなどで仕事を休んだため、給料が減るか、もらえなかった場合に所得を保障する仕組み
休業1日につき、給料(標準報酬)の日割りの額の3分の2相当が、
休職4日目から最長1年6ヶ月まで支給されます。
利用できるのは、健康保険や船員保険、

共済組合の被保険者本人

担当医師の証明と事業主(会社)の証明が必要

問い合わせ先 加入している公的医療保険
(保険者)の相談窓口

仕事を辞めた時の保障を利用したい

失業手当

雇用保険に加入していた方に対して、失業中の生活を支援するための失業手当、再就職の意志があること、退職前の1年間で6ヶ月以上の保険加入期間がある事、給付日数は加入期間や退職理由、退職年齢によって変わります。

問い合わせ先 住所地を管轄するハローワーク

障害のため充分に働けないときの保障を利用したい

障害年金

心身に障害があるために働けないか、働くことにより制限を受け
る場合に受けられる。初診日から1年半以上が経過し、初診日に
年金に加入しており、加入期間のうち3分の2以上の保険料が納
められているなどの要件があります。

問い合わせ先 国民年金加入のかた 市町村役所の窓口

その他のかた 各健康保険組合または

社会保険事務所

奈良社会保険事務局 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町7-1-33

桜井 奈良センタービル4階 tel 0742-32-0505

〒633-8501 奈良県桜井市大字谷88-1

tel 0744-42-0033 fax 0744-42-0038

奈良 〒630-8512 奈良県奈良市芝辻町4-9-4

tel 0742-35-1370 fax 0742-35-0638

大和高田 〒635-8531 奈良県大和高田市幸町5-11

tel 0745-22-3531 fax 0745-22-8638

がん治療・療養生活に関する相談

セカンド・オピニオンについて

診断や治療法に関して、主治医以外の別の医師に意見を聞くこと
治療法の選択に悩む場合や判断が出来ない場合などに、患者・家族が自分で選択・決定し、安心して治療を受けるために主治医以外の医師の意見を聴くことは有効である。

留意事項 1

セカンド・オピニオンを得る際の前提条件

- ・現在の主治医から十分な説明を受けていること
- ・元の医療機関に戻ることに

セカンド・オピニオン必要性や適用を判断する必要がある場合

- ・医師からの説明不足で、セカンドオピニオンを求めている
- ・医師の査定をして欲しい。医師への不信。
- ・訴訟のために、意見を聞きたい。
- ・積極的な治療方法の適応がないこと等が受け入れられない
- ・時間的余裕がない

留意事項

1. ファーストオピニオン（主治医の意見）をしっかり聞く
主治医への確認事項を一緒に整理するなど、
コミュニケーションが取れるようにサポートする。
容易にセカンドオピニオンを勧めない

2. 主治医から必要な情報提供を受ける

主治医に依頼することが出来るか確認する
診療情報を持たずにセカンド・オピニオン受けた場合の不利
益を説明する。

セカンドオピニオンは診察や検査はしない。意見を述べる場
である

再度検査が必要になると日数や費用を要する。
治療が遅れる。

3. 受け入れ先の情報提供

事前に状況確認

受け入れ体制、予約の必要性の有無、必要な資料、
費用（保険適用でなく自費診療）相談対象

奈良県内のセカンド・オピニオン外来

がん診療連携拠点病院

奈良県立医科大学附属病院

- ・ 電話による事前予約制
- ・ 月曜日から金曜日の午後2時から午後5時まで
- ・ 電話番号0744-29-8880
- ・ (セカンドオピニオン外来専用)
- ・ 料金1人(1事例) 1回あたり 21,000円(消費税込)
- ・ 相談時間は、1人(1事例) 1回あたり40分以内
- ・ 全額自費で、健康保険は適用されません。
- ・ 患者様ご本人、ご家族、いずれのご相談についても同額

県立奈良病院

- ・ 電話による事前予約制
- ・ 月曜日から金曜日(平日)の午後2時～5時まで
- ・ 電話番号は、0742-46-6001(代表)
- ・ 切迫・北・西外来 内線2722
- ・ 料金1人(1事例) 1回あたり8,400円(消費税込)
- ・ 相談時間は1人(1事例) 1回あたり40分以内
- ・ 全額自費で、健康保険は適用されません。
- ・ 患者さまご本人、ご家族、いずれのご相談についても同額

市立奈良病院

- ・ 電話による事前予約制
- ・ 月曜日から金曜日の午前8時30分～午後5時まで
- ・ 土曜日の午前8時30分～12時まで
- ・ 電話番号0742-24-1258(直通) 地域医療連携室
- ・ 料金1人(1事例) 1回あたり8,400円(消費税込)
- ・ 相談時間は1人(1事例) 1回あたり40分以内
- ・ 全額自費で、健康保険は適用されません。

国保中央病院

- ・ 電話による事前予約制
- ・ 月曜日から金曜日の午前9時～午後5時まで
- ・ 電話番号は、0744-32-8800(内線 2101)
- ・ 地域支援センター
- ・ 料金1人(1事例) 1回あたり8,400円(消費税込)
- ・ 相談時間は、1人(1事例) 1回あたり40分以内
- ・ 全額自費で、健康保険は適用されません。
- ・ 患者さんご本人、ご家族、いずれのご相談についても同額

天理よろづ相談所病院

電話による事前予約制

月曜日から金曜日の午前9時から午後4時

土曜日 午前9時から午前12時

電話番号 0743-63-5611 (内線) 8786

地域医療連携室

料金と相談時間 1人(1事例) 1回あたり

最初の60分間 10,500円

60分を超え90分まで 15,750円

90分を超え120分まで 21,000円

全額自費で、健康保険は適用されません。

- 患者さまご本人、ご家族、いずれのご相談についても同額
- 患者さんが未成年の場合には、親権者。

患者さんが15歳以上の場合は、患者本人の同意書が必要
ご家族のみで相談の場合は患者本人の同意書が必要

近大奈良病院

電話による事前予約制

月曜日から金曜日の午前9時から午後4時

土曜日 午前9時から午前12時

電話番号

料金と相談時間 1人(1事例) 1回あたり

1回 30分まで 10,500円(消費税込み)

30分から60分まで 21,000円最長1時間まで

全額自費で、健康保険は適用されません。

国立病院機構 奈良医療センター/奈良県奈良市

診療科:外科・脳神経外科

- 電話による事前予約制

午前8時30分～午後5時15分

電話番号 0742-45-1562 地域医療連携室

対象は外科 (乳がん・胃がん・結腸がん・直腸がん)

脳神経外科 (脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤・脳動静脈奇形)

腎椎疾患 顔面けいれん・三叉神経痛・痙性斜頸)

料金と相談時間 30分間 10,500円、

以後30分毎に5,250円

- 全額自費で、健康保険は適用されません。

緩和ケアを受けたい

緩和ケアってなに

がん治療が出来なくなつて受ける末期の医療というイメージ持っています。世界保健機構（WHO）では緩和ケアは、がんが進行した段階だけでなく、はじめてがんと診断された早い時期から、がんの治療と並行して行われるべきものとしています。

緩和ケアはがんという病気の状態や時期に関係なく、診断されたばかりの時期から療養の経過中を通じていつでも受けられるものです。身体的な苦痛や気持ちにつらさを少しでも和らげるためのサポートにより、それぞれの患者さんが、その人らしく過ごせるようにしていくことです。

緩和ケアチーム

主治医に協力して、がん治療を受けているがん患者さんや家族を対象にがんによる痛みなどの身体症状、療養にがんする不安などの症状緩和をはかり、治療中に生じる様々な問題について支援を行う。チームは様々な職種の医療従事者や専門家で構成されています。身体症状担当医師、精神症状担当医師、緩和ケア看護師、担当看護師、薬剤師、社会福祉士、がん専門相談員など

各がん診療連携拠点病院やがん診療医療機関で活動しています。緩和ケアチームがない医療機関でも、研修を受けた医師や緩和ケア認定看護師がいます。（認定看護師のいる機関は別ページへ）

緩和ケアについて相談は

入院中 病院の主治医

担当の看護師

緩和ケアチーム

がん相談支援センター

自宅療養中

在宅医

訪問看護師

ケアマネジャー

ヘルパー

薬剤師

緩和ケア外来

奈良県立医科大学附属病院

西和往診クリニック

緩和ケア外来・病棟

国保中央病院

南労会紀和病院（橋本市岸上）

在宅ケア診療所一覧

在宅ケアデータベース登録機関

医療法人 高浜医院 奈良市千代ヶ丘2-1-31
郡山いむらクリニック 大和郡山市田中町 763
植山医院 磯城郡田原本町 120
西和メディカルケアセンター 西和往診クリニック
生駒郡斑鳩町小吉田2丁目7-15
松宮医院 生駒市東松ヶ丘 17-8
寺崎クリニック 奈良市南城戸町 67
医療法人 芳愛会 原医院 大和郡山市横田町 708-3
医療法人 素心会 杉崎医院 五條市中之町 1771-33
医療法人 医真会 植田医院 櫻井市三輪 496-1
牧浦内科 大和郡山市額田部北町 479-3
医療法人 菊川内科医院 桜井市桜井 875 番地
友永循環器医院 天理市川原城町275-1 松尾ビル2F
医療法人 幸仁会 木下医院 櫻井市阿部 550
健生会 大福診療所 櫻井市大福 240-1
田仲医院 御所市奉膳 363
なかがわ 呼吸器科・アレルギー科医院
奈良市朱雀 6-20-1 朱雀医療ビル 102 号
医療法人 榎本医院 御所市大字戸毛 1130 番地

-30-

医療法人 雅会 山本クリニック 橿原市東坊城町 202-1
医療法人 平和会 とみお診療所 奈良市三碓 2-1-6
医療法人 豊生会 加藤クリニック 宇陀市榛原区長峯 200-2
医療法人 泰山会 福西クリニック 吉野郡下市町新住 155-1
足立医院 五條市須恵 2 丁目 6-21
ちゅうわ往診クリニック 橿原市内膳町 4-43-6
医療法人 鎌田医院 賀名生診療所 奈良県五條市西吉野町屋那瀬 13
医療法人 平和会 ならやま診療所 奈良市右京 3 丁目 2-2
医療法人 平和会 夕陽ヶ丘診療所 生駒郡三郷町夕陽ヶ丘 1-40
医療法人 平和会 あやめ池診療所 奈良市あやめ池南 6 丁目 1-7
明日香村国民健康保険診療所 高市郡明日香村大字立部 745
医療法人 澤田医院 香芝市五位堂 5-155-1
あまい医院 磯城郡田原本町 612
菊川医院 橿原市上品寺町 380-22
医療法人 吉川医院 橿原市中曾司町 175
医療法人 宮城会 宮城医院 天理市丹波市町 302
医療法人 坂根医院 磯城郡田原本町矢部 337-1
横山クリニック 北葛城郡王寺町王寺 2-6-4 クール吉田 3F
ホウキ診療所 御所市中央通り 1 丁目 1268 番地
医療法人 ひばり ホームホスピス ひばりクリニック 奈良市三碓 6-9-23

在宅療養するには

介護保険を利用したい

訪問看護や在宅医療を受けるには

医療への不安や苦情 相談窓口は

がん相談支援センター

現在お掛かりの医療相談窓口

医療機関毎に地域医療連携室（連絡室）や相談窓口が設置されています。また相談員を配置しているところもあります。

がんやがん医療に関する情報収集は
インターネットで
パンフレットや資料の入手は

心理者社会的側面の支援

がんに向き合う過程で、身体的苦痛、不安、恐怖、怒り、葛藤など精神的・心理的苦痛を抱える。相談を受ける側は患者・家族のこれらの苦痛や悩みを理解し、個別のケースに合った対応をしていくことが大切である。

心理社会的側面の特徴(症状)

①特有の懸念

治療の不確実さ:再発・転移の恐れ・死に致る疾患
経過の長期化:終わりの見えない治療・終わりの見えない医療費
病気及び治療による喪失感:健康・仕事・役割・結婚・ボディイメージ

②感情

不安・恐怖、怒り・敵意、孤立、罪の意識、拒絶、抑うつ、嘆き

③心理社会的側面の課題

医療費・生活費などの経済的問題、家庭や地域での役割の継続・変更
療養と復職など仕事との両立・かかわり、自宅での療養体制作り

④制度を含めた社会的側面からの影響

医療者との関係:症状をうまく相談することが出来ない。

セカンドオピニオンを得たいが話を切りさせない。

療養の場の移行:重篤な症状(末期の状態)にもかかわらず必要となる転院・退院、転院(退院)しなくてはならないことへの疑問

⑤疾病の進行による心理社会的側面の課題

診断確定期:診断への疑念、今後の生活への不安、

家族の患者との接し方、

療養期:経済的負担、雇用・復学、社会生活とバランス、

家庭内での役割交替

再発期:予後への不安感、おそれ

療養の場の移行期:転院の伴う見離され感、転院先の選択

在宅時の病院を出ることに対する不安

看護・介護にかかわることに対する不安感

自宅療養の具体的な準備

ターミナル期:人生の意味

死別後:遺された家族の悲嘆、遺された家族の生活の問題

心理的社会的側面の課題に関する対応時の留意点

1. 側面から支援するという立場を意識する

課題の整理を促す。意志決定出来るように情報を提供する

意志決定の掛かる迷いに寄り添い、問題を整理するプロセス補助

2. 患者のみでなく、家族も支援の対象とする

家族が犠牲にならないように、家族の生活も尊重する

3. 相談者の話をしっかり聴く

相談者自身が問題と感じている店を理解し尊重する

4. 相談の背景にある心理社会的側面を配慮する

表面に現れた相談内容(感情)のみでなく潜在する課題の理解

5. がん相談員が対応するべきことと、出来ないことを区別する

問題の整理と適切な窓口を紹介する

がんやがん医療にかんする情報収集は

情報資源の収集スキルと提供

患者・家族は医療・療養に関して様々な選択を求められる。自己決定を可能にする材料となる医学情報やがん関連情報には精通していないため迷う患者は少なくない。又多量 な情報を前に根拠や信頼性を巡り混乱している場合もある。治療の方向性や療養場所の選択など、患者・家族が意志決定するための支援には、選別された情報提供が必要である。

情報収集と情報提供する際の留意点

1. 情報検索に移る前に、情報を必要としている理由を聞く
2. 情報提供の前には、相談者がどのような情報を知りたいかを一緒に整理する。患者本人か家族により異なる

情報を得たことによる効果(結果)の推測

情報提供後の心理的変化を予期する。情報提供前後の心理的支援を整理する。

3事前に収集しておくべき情報

①各種がんの解説、②予防と検診、③診断(検査)と治療法、④がんと生活(食生活、症状対応、後遺症副作用対策、心のケア、コミュニケーション)、代替療法・補完療法)⑤緩和ケア、⑥がん統計、⑦用語
情報収集手段と整理

①公的機関。学会、専門職能団体・協会などのホームページや書籍

会報 ②都道府県・市町村窓口③場合により情報元に使用許可を得る④収集した情報はデータベース化する。⑤優先度を踏まえて整理

4. 各ツールについて

5. 参考になる医学情報・がん関連情報源

6. 相談者への適切な情報資源の提供方法

7. 相談者への適切な紹介先の提供方法